

教育大綱の再確認について

1. 第1回総合教育会議のまとめ

- ・教育大綱は、制定から10年目が経過
- ・市長1期目（令和4年）に教育大綱を再確認し、見直しは「なし」でそのままの形で運用することとなった
- ・市長2期目（令和7年）も改めて教育大綱（前文含む）の内容を再確認した方が良い
- ・第1回総合教育会議の中で出た意見を踏まえて、次回、事務局案を提示し、「見直しをする・しない」を含めて総合教育会議で協議していくことで決定
- ・教育大綱に係る主な意見は以下のとおり

【教育大綱に係る主な意見】

- ① 「培う」が東井義雄先生著書の「培其根」の理念に基づくことを分かるようにしてはどうか
- ② 「培う」はそのまま残した方が良い
- ③ 6つの「培う」を覚えやすいように整理してみてはどうか
- ④ 「共創」の言葉を入れた方が良い
- ⑤ 当時、教育大綱をつくった人たちの想いは大切にするべき



(1) 前文の整理

【現行】

前文見直し たたき台

「子育て、教育なら磐田」と誰もが実感できるまちづくりを下記のとおり目指します。

かけがえのない命を精一杯生き、ふるさとの先人たちが築きあげた磐田の大地に根を張った人づくりの精神と伝統文化を未来へ継承し、生涯にわたり社会を生き抜く力を育成します。

さらに、学校・地域・家庭の連携・融合による学府を核とした新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。

本市の未来をひらく礎となる基本理念「教育大綱」へは、「磐田の教育」道しるべと、子どもたちの成長を育む“磐田市こども憲章”により、進むべき方向が示されています。学校・地域・家庭への浸透を目指します。

【見直し】

本市の教育は、教育者「東井義雄」の著書「培其根」の「根を養えば、樹は自ら育つ」の理念のもと、下記のとおり目指します。

かけがえのない命を精一杯生き、ふるさとの先人たちが築きあげた磐田の大地に根を張った人づくりの精神と伝統文化を未来へ継承し、生涯にわたり変化の激しい現代社会を生き抜く力を育成します。

さらに、学校・地域・家庭・事業者の連携・融合など「共創」による新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。

本市の未来をひらく礎となる基本理念「教育大綱」へは、「磐田の教育」道しるべと、子どもたちの成長を育む“磐田市こども憲章”により、進むべき方向が示されています。学校・地域・家庭・事業者への浸透を目指します。

【ポイント】

- ・ 培其根（東井義雄先生からとったこと）
- ・ 共創
- ・ 急激に変化する社会への適応

「培う」見直し たたき台

(2) 6つの「培う」の整理

	現行から2つ減らし、4つの場合	現行	考えられる候補
培 う	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを培う ・誇りを培う ・礼節を培う ・敬愛を培う ・感謝を培う ・こころざしを培う <p>※「敬愛」の中に「礼節」と「感謝」の意味合いが含められている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを培う ・誇りを培う ・礼節を培う ・敬愛を培う ・感謝を培う ・こころざしを培う 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりを培う (多様性、共創) ・創造を培う (社会変化への適応) ・かがやきを培う (未来に希望をもつ) ・しなやかさを培う (困難への適応) ・探求を培う (学び続ける)
改 良 点	<ul style="list-style-type: none"> ・項目が少なく、<u>覚えやすい</u> ・重点が明確になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」～「こころざし」の順序性（ストーリー）が取れた構成 ・<u>変更に伴う影響がない</u>（バスのラッピングなどの費用不要） 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存理念を維持しつつ、<u>現代教育の潮流にも対応</u>
懸 念 点	<ul style="list-style-type: none"> ・順序性（ストーリー）が構成しづらい <u>・子どもたちや家庭等へ改めて浸透させるのに、十分な説明が必要</u> <u>・作成時の関係者への理解、説明が必要</u> ・バスのラッピングなど費用が発生 	<ul style="list-style-type: none"> <u>・覚えにくい</u> ・現代教育の潮流（多様性、デジタル化の対応など）が分かりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目が増えて、<u>さらに覚えにくい</u> ・焦点がぼやけて言葉から意味合いを連想しにくい ・順序性（ストーリー）が構成しづらい <u>・子どもたちや家庭等へ改めて浸透させるのに、十分な説明が必要</u> <u>・作成時の関係者への理解、説明が必要</u> ・バスのラッピングなど費用が発生